

2018 年度 介護・医療連携推進会議（第 1 回）

日時・場所	2018 年 4 月 27 日（金）14：00～14：50 アップルハートリビング飯塚会議室	出席者 （敬称略）	近畿大学産業理工学部 准教授 長谷川 直樹 飯塚病院 地域包括室長 小栗 和美 飯塚市高齢福祉課 看護師 曾我部 恵津子 AMS 在宅グループ シニアマネージャー 梅 寿 24H 定期巡回 管理者 大場 陽巳 矢野 真澄
作成日時	2018 年 4 月 27 日（金）	記録者	矢野 真澄（計画作成責任者・訪問看護兼務）

報告事項 特記	1. 実績報告（2018 年 1～3 月） ・利用者数：24 名（男性 6 名、女性 16 名／AHL19 名、外部 3 名／うち訪問看護利用 10 名） ・平均介護度：要介護 1.8（全国平均は要介護 2.4 であり、当事業所はやや低い） ・平均年齢：85.3 歳 ・1 日あたり平均利用回数（3 月）： （介 1）6.2 回 （介 2）6.4 回 （介 3）10.3 回 （介 4）10.1 回 （介 5）12.2 回 ・1 日あたりの総訪問回数：150 回（徐々に整理ができつつある。要介護 1 で訪問頻回の問題等） ・1 日あたりの総訪問時間：19.6 時間（移動やエレベーター待機の時間は含まず） ・医療機関連携状況：頤田病院が連携先として新たに増えた（訪問診療あり）。 ・職員状況：有資格者が増えた。 ・収支状況：黒字転換となっている。3 割を外部利用者に 増えたり減ったり ・外部利用者分布状況（3 月）： （1）小正【介 1】…事業所から約 12 分。週 5 回。 （2）東徳前【介 1】…事業所から約 10 分。週 2 回。 （3）鯉田【介 4】…事業所から約 15 分。週 14 回。 ・随時対応状況：外部利用者の緊急コールはなし（3 月）。家族が対応。 AHL 入居者の緊急コールは日中平均 2～4 回程度。夜間も平均 1～3 回程度。 トイレ誘導の緊急コールは定期時間の調整により、減少傾向あり。一方、不安や物忘れによる相談対応の頻度が増加傾向にあり、多い時は 1 日 10 回以上。 ・利用相談状況：外部利用者 3 件（下三緒、筑前大分、伊岐須）。外部を増やしていきたい。 ・事故発生状況：N 様（85 歳、女性、介 1）。誤薬事故あり。服薬後に嘔吐があり、さらに嘔吐のし過ぎで吐血が発生。検査入院となった。詳細については配布資料にて。 【問題点】 ①薬が混在していた。 ②配膳準備をしながら薬を御膳に乗せる過程でそれぞれのやり方が異なっていた。 【改善策】 ①1 回分ずつ薬をケースに入れ、物理的に混ざらないようにした。ケースに入れる際は、2 名で確認して入れるようにした。 ②配膳と配薬は可能な限り業務として切り離すようにした。日勤スタッフと夜勤スタッフの連携が取れるよう、配膳の際のダブルチェックができるよう行程を変更した。 2. 質疑応答 ・（長谷川氏）レジュメ 8 頁について。10～11 月の収支より利用数が増えている 12 月以降の収支が低いのはなぜか？ （大場）12 月に人員拡充をし、人件費が増えたことが影響している。 ・（曾我部氏）レジュメ 14 頁について。誤薬事故発生後、家族への対応は行ったか？ （大場）すぐに行った。関係各所に対しても迅速に対応した。 3. 平成 30 年度介護報酬改正について ①基本報酬： - 大幅な報酬 up はなし。利用者側からすると、月 10 円単位の負担増。 ②オペレーター基準の見直し： （改正前）オペレーターと定期訪問介護員は兼務することができていても、随時訪問介護員は兼務することができない（18～8 時は除く）。 （改正後）終日定期・随時ともに対応することができる。但し、ICT の活用や TEL 転送等の対策が図られていることが前提。
------------	--

	③同一建物等居住者への減算： (改正前) 600 単位減算 (改正後) 50 人未満なら 600 単位減算 50 人以上なら 900 単位減算 ④地域へのサービス提供の推進： 一部の事業所において、利用者のすべてが同一敷地内または隣接する敷地内に所在する建物に居住しているような実態があることを踏まえ、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業者は、正当な理由がある場合を除き、地域の利用者に対してもサービス提供を行わなければならないことを明確化する。 ⑤緊急時訪問看護加算の見直し (改正前) 月 290 単位 (改正後) 月 315 単位 ⑥介護・医療連携推進会議の開催方法・頻度の緩和 (改正前) 概ね 3 か月に 1 回【年 4 回】 (改正後) 年 2 回【宿泊のない他の地域密着型サービス準拠】 4. 介護・医療連携推進会議の開催頻度について 上述した通り、法改正で年 2 回開催すれば良いということにはなったが、事業開始から 1 年経ったばかりの状況で半年に 1 回では外部評価も困難と思われる。事業所都合で申し訳ないが 4 月に 1 回の頻度で開催してもよいかどうか意見を聴取。 (小栗氏) しっかり説明を聞かないと理解しにくい内容も正直なところあった。年 3 回が妥当だと思う。 (曾我部氏) 小栗氏と同意見で年 3 回が妥当だと思う。必要であればスケジュール調整する。 (長谷川氏) 私も年 3 回が妥当だと考える。 (大場) 前年度の反省を活かし、事前の準備等をさらにしっかりしていきたい。 事業所の目標としては、今年度中に利用者を 30 名以上に増やすこと。外部ケアマネジャーからのご紹介を増やすこと。地域の方に「AHL に入居していないと利用できないサービス」と誤解されている面があるため、もっと地域に出ていくことで周知徹底に努めたい。 (小栗氏) 地域への展開は、共立病院と連携すると良いと思う。 (大場) ぜひ連携していきたいと思う。共立病院のケアマネジャーから相談も来ている。 (大場) 今年度の会議は、細かくて分かりにくい部分をなるべく省略して、昨年度話題に出た部分、検討が必要となった部分を中心に話していきたい。		
	次回までの タスク	実績報告(4～9月)等	担当 大場
	通達事項	特になし	
	次回日程	2018 年 10 月 26 日(金) 14:00～15:00 アップルハートリビング飯塚会議室	
	留意事項	特になし	